

ALL THE LIGHTS OF JAPAN

BRILLIANT
POP
MUSIC

THE MOST
POPULAR
MUSIC

川上源一

ライト・ミュージック・コンテストは今年で3度目になりますが一昨年昨年と私は審査員の一人として皆さんの演奏をきき、たいへん楽しい思いをしました。たくさん若い人が生き生きと、喜びにあふれた演奏をするのをみて私は自分がかねてから考えてきた音楽の新しい道に自信を持ちましかいでなかったことをうれしく思います。私は音楽は君たちや、ぼくたちが自分たちの生活の喜びや悲しみを分かち合うためにあるものだと考えます。現在ライト・ミュージックの音楽に生命力があるのは、この生活の喜びや悲しみを分かち合うという音楽本来のあるべき姿を積極的に開拓したからであって、もし先人のつくったものをただ再現するというにのみ勉強の大半を費したなら音楽を楽しみ表現しそして新しく作りだす能力は失せてしまったことでしょう。さて今年も二万を超える若い人たちがこのコンテストに参加しています。このことは、ますますたくさん若い人が自ら音楽を演奏し、つくりだし自分を表現することに参加しつつあることの、証明だと思います。今年もこのコンテストを通じて、真の音楽を理解する人を増やそうではありませんか。

舞台でベストをひくします。

宣言

■審査員

猪俣猛 沢田駿吾 すぎやまこういち 中村とうよう 中村八大

第3回全日本ライトミュージック・コンテスト決勝大会出場バンド

〈ヴォーカル・グループ・サウンド部門〉

- 1 エレクトリック フェズ(関東甲信越代表)
●When I loved you. ●I wanna make love to you.
- 3 2 慶応義塾大学K・B・Rザ・カルア(関東甲信越代表)
●How insenstive ●カルフォルニア・ソウル
- 1 3 ザ・ヴィーナス(東海代表)
●トライ・ア・リトル・デンダーネス ●イエスタディー
- 4 サニー・ビーツ(中国代表)
●最後の恋 ●孤独の叫び
- 2 5 ザ・サンビーム(関東甲信越代表)
●モア ●アイヴ・ビーン・ラヴィング・ユー・トウー・ロング
- 1 6 カウンツ・ジャズ・ロック(関西四国代表)
●テレサのブルース ●カウツジャズロックブルース

〈ロック部門〉

- 2 7 カルチャード・エイプス(東海代表)
●ジプシー'66 ●トモロー・ネバー・ノーズ
- 3 8 ラグ ドールズ・マイナス2・プラス1(関東甲信越代表)
●Moon Landing

〈フォーク・ミュージック部門〉

- 1 9 赤い鳥(関西四国代表)
●竹田の子守唄 ●come and go with met children
go where send thee
- 10 ち・あるでひど(中部北陸代表)
●二人だけ ●桜の花が散って行くように
- 2 11 ジ・オフコース(東北代表)
●JANE JANE ●ONE BOY
- 3 12 ザ・グッピーズ(北海道代表)
●春になったら ●まつり
- 13 ジャック・ディーブ(九州代表)
●ヤッチャム・レディオ ●チューリップのアップリケ
- 14 スモーキー・マウンテニアーズ(関東甲信越代表)
●Panhandle Country
- 15 スロース(関西四国代表)
●ブレディー・ブレディー・ブレディー ●サマー・タイム
- 16 D・D・T(関東甲信越代表)
●マンデー・マンデー ●チケットウー ライド
- 17 フォーク・イーゼス(九州代表)
●死んだ女の子 ●思い出
- 18 ザ・フォーシンガーズ(九州代表)
●エル・マタドル ●金比羅舟々
- 19 ロス ヒターノス(中部北陸代表)
●ソレ・マタドル ●アレス ●タンゴフラメンコ

〈ジャズ・コンボ部門〉

- 20 グルーヴィング5+1(関西四国代表)
●サテンドール ●マラゲーニア
- 21 竹越真樹トリオ(関西四国代表)
●酒とバラの日々
- 1 22 東京理科大学スパイラル・ステップス(関東甲信越代表)
●Maiden Vogage ●Windows Opened
- 2 23 同志社大学モダンジャズグループ'70(関西四国代表)
●月の石 ●スティング・レイ
- 24 マイル・ストーンズ(北海道代表)
●GREEN SLEEVES ●DRY GIN
- 3 25 早稲田大学モダン・ジャズ・グループ(関東甲信越代表)

〈フルバンド部門〉

- 2 26 愛知学院大学スインギングオール・スターズ(中部北陸代表)
●Mean what your say ●アンドミーリッスン
- 27 H.C.C.キューバン・ナイツ(中国代表)
●アフロキューバンジャズ組曲より鳥の曲 ●慕情
- 3 28 法政大学ニュー・オレンジスウィング・オーケストラ(関東甲信越代表)
●スイッチ・イン・タイム ●ヒアー・アイム・ベイビー
- 1 29 早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラ(関東甲信越代表)
●AIfie ●A' That' Freedom

浜口庫之助 藤井肇 前田憲男 宮川泰 林雅彦 八城一夫 渡辺貞夫 川上源一



〈VGS部門〉
関東甲信越代表

エレクトリックファズ



ドラムとベースは白人、ヴォーカルは黒人、そしてギターは寺町君からなる異色のグループ。このグループは、駐留アメリカ軍・調布ハイスクールのスクールメイトからなり、学校の遊び友達(?)が集ってこの六月に結成したという。気心の知れたスクールメイツとあって、練習をする機会にはめぐまれているのだが、時々、グループの各自が個人プレーに走ってしまうことがあるのが悩みだという。「僕たちのグループは、黒・白・黄々と色々あるから(笑)大変です。たとえば、ベネットには黒人独特のフィーリングがあり、ドラムとベースには白人の洗練されたセンスがある。それら個々の才能を生かしながら、グループとしての調和を創りだしていくのがこれからの課題です」と寺町君は語った。今後の成長ぶりが楽しみな、若い元気いっぱいのグループである。

メンバー紹介

ボブ・キャメロン(ドラムス)

バービー・広瀬(ベース)

ラモント・ベネット(ヴォーカル)

寺田孝司(ギター)

〈VGS部門〉
関東甲信越代表

慶応大学KBR ザ・カルア



ヴォーカルの女性を真中に、まわりを6人の男性が包むようにして演奏する、いかにも慶応ボーイらしい“カッコイイ”グループである。KBRとは慶応大学の公認バンドの略称。これがつくと、いい加減なことではなくなる。常に良い演奏をしなくてはならない、音楽的に常に前進していかなくてはならないという課題を負わされるからだ。外見はカッコよくとも内容はたいへん厳しいところだ。もっともメンバー自身は底抜けに明るい。「みんな気さくで愉快なやつばかりなので、気をつかうことなく、時間を忘れて、自由奔放にやっています」とリーダーの樹谷君は語る。樹谷君は第一回のLMCにKRBザ・カルア'67の一員として参加している。その時はジャズ部門だった。前身がハワイアン・バンドのこのグループ、現在はロック・バンドである。いろいろ目まぐるしく移り変わるわけだが、多様な可能性を追っているということでもあるのだ。

メンバー紹介

樹谷淳昌(ギター) 東久爾秀彦(ベース)

宮崎正子(ヴォーカル) 後藤順一(ドラムス)

川嶋拓生(ヴォーカル) 井上秀一(ピアノ)

小林信一(サクセス&ヴォーカル)

〈VSG部門〉
東海代表

ザ・ビーナス



キュービッドのようなヘアー・スタイルだが張りのある低音で聴かせるヴォーカリストが看板のグループ。十七才が三人、十八才と十九才が一人ずつの五人組。若いものの集まりだけにパンチのきいた演奏を展開する。バンド結成は一年前とのことだ。静岡県清水市でバラバラにバンド活動していた連中が寄り集ってできあがった。早稲大学のゴーズ・グループ・サウンズ大会に参加、見事優勝をさらってしまった。その自信と油の乗り切った調子でLMCへ突き進んできた。ヴォーカルの望月君は「心に強くうったえるような歌をうたいたい」という。彼はオーティス・レディングが大好きだが「真似はしたくない」ときっぱりいい切る。望月君に「君のワンマン・バンドのようだけど」ときくと、「いやあちがいますよ。歌だってみな歌えますし、コーラスもつけられますから。アレンジはオルガンがやりますしね。チーム・ワークもいいんですよ。全国大会でほかたちのバランスのよさをみてもらえたいと思います」ということだった。

メンバー紹介 望月浩(ヴォーカル)

石川清(リードギター) 関崎義高(オルガン)

小林雄治(ベースギター) 松本康のり(ドラムス)

〈V.G.S.部門〉
中国代表

サニー・ビーツ



ヴォーカルの福原君のすばらしいフィーリングが聴きものだ。このバンド、一見ヴォーカルが中心のように思えるのだが、実際はそうではなかったらしい。結成は昨年四月。近畿大学の軽音楽部に所属するロック・バンドが、そもそもの始まりだった。これがヴォーカル・GSに変身したわけだが、そのへんの事情は“ひょうたんから駒”的なものだったようだ。リーダーいわく、「最初はヴォーカルの福原もギターを弾かせたりしてたんですよ。ところが下手でどうしようもなかったんです。そこでヴォーカルをやらせたんですが、ようやく新境地をみつけたといった具合なんです。しかし、この間の地区大会では、逆に、バックをなんとかしろっていわれて、こんどはわれわれの方がハッパをかけられちゃいました」。サニー・ビーツは「ムーン・リバー」や「ダニー・ボーイ」などスタンダードもの、それからトム・ジョーンズのナンバーが得意とのこと。全国大会でもオーソドックスな演奏を聴かせてくれるだろう。

メンバー紹介 広島修(ギター)

後藤勉(ベースギター) 吉田敏幸(オルガン)

矢田具弘人(ドラムス) 福原義徳(ヴォーカル)



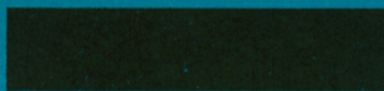
〈V・G・S部門〉
関東甲信越代表

ザ・サンビーム



昨年の第2回LMC全国グランプリ大会でV・G・S部門2位に入賞したバンドだから、すでにその名をご存知の人も多いことだろう。そして、3才のときに小児マヒにかかり、足の自由を失ったバンド・リーダー・八巻君のボーカルのすばらしさを今でも覚えている人も少なくないだろう。さて、そのサンビームだが、今年も昨年と全く同じメンバーで予選を勝ち抜き、グランプリ大会出場が決まった。この1年間、彼等は、昨年のV・G・S部門の優勝者・ザ・マックス打倒を目ざして練習を種んで来たのだが、そのマックスが今年も出場しなかった。それは彼等にとってちょっと拍子抜けすることだったが、グランプリ獲得という大目標は残っている。八巻君「今年の出場各バンドの水準は驚くほど高くなっている、優勝は並大抵のことではありません」と語っているが、メンバー全員、優勝への強い決意をみなぎらせている。

メンバー紹介 八巻比呂古(リードギター)
成田延由(サイドギター) 平塚孝(オルガン)
福田行照(ベースギター) 吉本勇(ドラムス)



〈ロック部門〉
関西・四国代表

カウント・ジャズ ロックバンド



今年の全国的な傾向でもあるが、関西・四国地区でも、ロックのインストルメンタル部門出場バンドは激減した。それは、かつてのベンチャーズ・スタイルから新しいスタイルへの切り替えがスムーズにいかなかったせいだともいわれている。

そうしたなかで、このカウント・ジャズ・ロックバンドは6年間、ベンチャーズ・スタイルで発足しながら、新しい感覚のロックバンドへと転身してきた数少ないバンドの一つといえるだろう。もっとも、発足当時のメンバーで残っているのはリーダーの大村君ただ一人になってしまったのだが…。

他のメンバーは、大村君が仲間のバンドからスカウトしたり、解散したバンドから探したりして集めたということである。

ところで、このバンドの今の悩みは、メンバーの一人が、東京へ行ってしまい、練習が十分できないことだそうだが、グランプリまでは帰ってきてもらって、集中練習することのだ (神戸市)

メンバー紹介
大村憲司(ギター)
マーティン・ウィル・ウェバー(ドラムス)
山村隆男(ベース)

ロック部門
東海代表

カルチャード・エイプス



「ベンチャーズや寺内ブシはもう古いし、アドリブを入れた新しいロックをやりたいね」と同じ寮の仲間で話し合っていたが、いつの間にかバンドを組むようになったという。四人とも日本楽器の本社で働いている。ギターとドラムが意匠課。つまりギターなどのデザインをやるところ。フルードは音楽器の研究課。ベースはオルガンやギターの設計課にいる。このグループの最大の特徴は、日本の音階をつかって、東洋的なサウンドをつかっていくということ。アドリブを入れたロックは現在ニュー・ロックとして流行しているが、それと決定的に違うのはブルースを母体としていないことだという。レパートリーはオリジナルと編曲とを合わせて十五曲ほど。クラシックからポップスまで様々だが、それぞれ自分たち風に消化したつもりだとのこと。そういえば地区大会でも、クラシック・ギターの名曲「アランフェス協奏曲」やビートルズの「トゥモロウ・ネバー・ノウズ」を巧みに編曲していたのが思いだされた。

メンバー紹介 長谷川短祥(ギター)
大島恵司(フルード) 三好一豊(ベース)
田中達也(ドラムス)



〈ロック部門〉
関東甲信越代表

ラグドールズ-2+1



今度のLMCに向けて結成されたバンド。ラグドールズというクワルテットからドラムとベースの2人が抜け、新たにドラムが1人加わったということから、ラグドールズ-2+1と命名。何よりもグループの中の個々の演奏を大切にしたいといい、敢えてグループの在続には固執したくないというのだからバンドとしての練習はほとんど持たず、今度も、地区大会の前日に一度だけ集っただけ。あとは個人の才能を尊重し、「名自が自己をもっとも発揮できるようなバンドを創ればそれでいい」と全員が口をそろえて語る。ギターを担当している山口さん、ウェス・モンゴメリーのようなギターリストになりたいといい、本格的なギタートリオを結成したいという。個々の才能を条件にめぐまれた、気軽でとてもドライなグループであるようだ。

メンバー紹介 山口昌則(ギター)
稲垣政己(ベース) 立川雅章(ドラムス)



〈フォークミュージック部門〉
関西・四国代表

赤い鳥



阪急神戸線に“むこうのそう”という駅があるが、そこでタウン・コンサートと銘うたれた町の定期コンサートが行なわれている。そのコンサートの中から生まれたのが、このフォーク・バンドである。

阪神地区には伝統もあり、実力のあるフォーク・バンドが目白押しに並んでいるのだが、この「赤い鳥」はリーダーの後藤君が、タウン・コンサートに出場している人たちの中から、「これはいける」と思った人をスカウトして今年二月にできたバンドで、比較的历史は浅いのだが、実力は高水準を行っているようだ。というのも、メンバー一人一人の演奏歴がかなり長いからである。

ところで、このバンドの抱負はフォーク・ソングというワケを破ってジャズやロックとの交流をはかっていきたいとのことだが、もしそれが実現すれば、「赤い鳥」だけでなく、日本のフォーク界全体が飛躍するきっかけになることだろう。(西宮市)

メンバー紹介

後藤悦治郎(ギター) 山本俊彦(ギター)
平山幸代(ピアノ) 新居潤子(ヴォーカル)
大川茂(ベース)

〈フォークミュージック部門〉
中部北陸代表

ち・あるでひど



三重四日市工業高校三年生のペア。背の高い松永君は電気専攻、伊藤君は営業専攻。二人とも就職先は決まっている。一人は川崎に、一人は名古屋に行くので、これを最後に解散するそう。しかし、「自分の出せる限界まで出しきったのでもう満足しています」とのこと。ユニークなオリジナル・ソングを持っているだけに、解散は残念なことだ。作曲は主に伊藤君の担当、作詞は二人でやる。「レコードを沢山聴くんです。きれいなコード進行があると、それをやってみたくります。でも編成がベースとギターの二人だから、普通のフォークではだめなんです。結局オリジナルになっちゃいます」と伊藤君。オリジナルは今までに二十曲ばかり作ったそう。全国大会でも日本調の曲を聴かせてくれるらしい。今夏のヤマハ・ミュージック・キャンプで特訓を受け、さらに力がついたというこのペア、有終の美をなしてあげてほしいものだ。

メンバー紹介

伊藤茂樹(ギター)
松永有二(ベース)

〈フォークミュージック部門〉
東北代表

ジ・オブコース



たいへん都会的なグループである。東北のバンドには、モダンな曲を演奏しても、どことなく土の匂いのようなものがただよっているのだが、オブコースにはそれが全くなかった。むしろ、バツくさい感じさえするバンドなのである。終ってから聞いてみると、生れは全員横浜。高校時代に3人でバンドを結成、1人が東京工大へ、2人が東北大学へ進み、卒休みなどに集って練習していたのだが、卒業を間近にひかえて、ひとつ腕だめしをしようということで、東北から出場したのだそうである。東北地区本選大会では聴衆のなかから5人の男女が出て、人気投票をおこなったが、3人がこのオブコースを1位にあげた。審査に当たった中村とうよう氏の選後評によれば、東北地区大会の「フォーク部門は古い形を脱しきれないものが多かった」が、オブコースは聴き手を十分感動させたのである。

メンバー紹介

地主道夫(ギター) 小和和正(ギター)
鈴木康博(ベース)

〈フォーク・ミュージック部門〉
北海道代表

ザ・グッピーズ



このバンドのメンバー4人はいずれも北海道教育大学旭川分校の学生たち。それぞれの専攻は違うが、「音楽が好き」という一点で集まった仲間だということである。

結成は7月に行なわれた旭川地区予選の直前そのため、予選での成績は第3位で、かろうじて北海道大会への出場権を勝ち取ったところだったが、それ以降の練習がものすごくあった。連日、特訓につく特訓で、北海道大会の日まで、1日も休まなかったそうである。こうした激しい練習の成果がみごとに実を結んで、グランプリ大会出場の大冠をつかんだグッピーズだが、このバンドの強みはなんといってもすばらしいオリジナルを何曲も持っていることにある。そのオリジナルの作詞者は稲葉君といい、メンバー外の人だが、グッピーズをグランプリ大会へ送り出した際の立役者ということができよう。(旭川市)

加藤一大(ギター) 千葉芳久(ギター)
遠藤啓一(ベース) 野崎順子(ヴォーカル)

〈フォークミュージック部門〉
九州代表

ジャク・ディープ



九州地区の全国大会出場バンドは三バンドともフォーク・バンドだったが、そのなかで一位を得ている。地区大会では、「チューリップのアップリケ」とオリジナル「ヤットム・レイディーオー」を演奏したが、リズム感、ハーモニーともに安定した力をみせていた。トリオを組んだのは、わずか二カ月前のこと。最初はPPMの真似をしようと思ったが似なかったのでやめたという。今は特に手本にするバンドはなく、コピーしようとも思わないそうだ。「あまりコピーにこだわるとそれに左右されちゃうんです。チラッと聞いた歌を自分のものにしていこうと思ってるんです」とリーダーの熊本君は語る。このバンドの弱味は、「ハーモニーがきれいじゃないので、リズムックなものになりやすい」とのこと。しかし、全国大会には、「バッチリ迫力のあるオリジナルをつくってがんばる」と意気盛んなところをみせていた。

メンバー紹介

熊本茂文(ギター&ヴォーカル) 吉田博昭(ギター)
黒田英典(ドラムス)

〈フォークミュージック部門〉
関東甲信越代表

スモーキー・マウンテナーズ



千葉大学のカントリー&ウエスタン研究会に所属する四年生ばかりのグループ。本当のグループ名はグレート・スモーキー・マウンテナーズだが、グレートは遠慮してはくれたのだそう。誇大宣伝のこの世の中にあってなんとも奥ゆかしい感じだが、話を聞くとまたまたしおらしい。「ぼくたち力がないので、自分たちで楽しんでいるんです。特別に上手な人もいませんから、アンサンブルを聴いていただくと思っています。」スモーキーのねらいを一口にいうと、ビル・モンロー風な持味だという。一年の時からメンバーは変わらないのでチーム・ワークは抜群だ。しかし、今は園芸科の二人が本校と離れて松戸にいるせいで練習がなかなかできないとのことだ。LMC全国大会への抱負を聞くと「ともかく恥をかかないようにやるだけです」と最後までひかえめに話してくれた。

メンバー紹介

室田宗宏(バンジョー) 荒居聡(リードギター)
白井孝夫(マンドリン) 神崎典弘(フィドル)
河口孝久(ベース) 大塚益弘(ギター)

〈フォーク・ミュージック部門〉
関西・四国代表

スロース



このバンドは三重県・浜島のミュージック・キャンプで8月に行なわれた“ネム・LMC特訓”に参加、各講師からはげしいごきょうをうけてめきめき腕を上げたバンドである。メンバーも口々に「特訓のおかげで、フォーク部門で1位になりました」とその喜びのほどを語っていた。スロースのメンバーは4人とも大学生で、ベースが4年生であるのを除いて、残りの3人は3年生である。その3人が入学したとき、彼らの大学にはフォーク・バンドはなかった。そこで、フォークの好きな1年生3人が集まってつくったのが、このバンドの出発であり、その後、ベースの4年生も加わって、今のブラザーズ・フォー・スタイルができた。

ハーモニーの美しさで聞かせるこのバンドはグランプリ大会でも大いに活躍することであろう。(大阪市) メンバー紹介

井上隆雄(ギター) 川崎竜一(ベース)
山本和久(ギター) 北野良夫(ベース)

〈フォークミュージック部門〉
関東甲信越代表

D.D.T



国学院大学の3年生、4人からなるフォーク・グループで、今年初登場、高校時代に2つの別々のグループだったが大学入学と同時に1つのグループになったのが、今の編成の始まりだそう。学生バンドは時間があるからいいという声をよく聞くが、このD.D.Tに関してはこの言葉はあてはまらない。みんながそれぞれ学業の合間にアルバイトを持っているからで、なかには夜中の12時から朝の6時までという人もいる。したがって練習時間は一日平均2時間。「今回、一番苦労したのは選曲です。他のバンドにはない自分達だけのサウンズをだしたいと思って、ママス・アンド・パパスのナンバーを持ってきたり、もう一曲はオリジナルの「白い雨」がスローテンポ、むずかしいので経験のある「チケット・トゥ・ライド」に直前になって変更したり、色々とも気がめえました。僕達のバンドのこれからの課題にはエレキをもっとマスターすることとレパートリーを増やすことだと思っているんですよ。」とリーダーの坂本君は語っていた。

メンバー紹介

坂本行則(リードギター) 大久保康男(ヴォーカル)
川上信一(ドラム) 中島富雄(ベース)



〈フォークミュージック部門〉
九州代表

フォークイーゼス



昨年の3月に、ピーター・ホール・アンド・マリーの好きなものたちが集ってできたグループ。編成も女性一人をまじえたPPMスタイルだ。北九州はフォーク・グループのサークル活動が活発とのことだが、彼らの結びつきも、北九州フォーク・ソング・ソサエティーをなかちとしてしている。もっとも今ではその中心的存在だ。LMC参加は今年で二回目。昨年も全国大会まで進出し、作曲賞を得ている。注目に値するのは、このグループの紅一点、女性ヴォーカリストだ。そのフィーリング、全身を使って表現しようとする歌いぶりは定評のあるところだ。また、バンドそのものとしては、昨年まで黒人的なイデオムとソウルのある曲が得意だったものが、このごろではオリジナル・フォークを積極的にとりあげようとしている。今回の地区大会でも高石友也曲の「死んだ少女」を聴かせたが、情感のこもった魅力的なサウンドをつくりだしていた。

メンバー紹介

安部二三男(ギター) 大和美紀子(ヴォーカル)
浅辺憲治(ギター) 犬丸孝寿(ベース)

〈フォークミュージック部門〉
九州代表

フォーシンガーズ



西南学院大学4人組のフォーク・グループ。得意のナンバーは「金比羅舟々」。民謡のアレンジは初めてだそうだがなかなか見事にまとまっていた。もっとも、これまでにまとめるにはだいぶ苦労したらしい。プレスがむずかしいのでリズムを変えたり、音域を変えたり、四苦八苦したそうだ。手本にしているバンドはビートルズ、そのコード進考などたいへん参考になるという。地区大会で演奏した曲も、イントロとエンディングの半音進行は、ビートルズから得たとのことだった。恵まれている点は練習場所にこと欠かないこと。毎日3〜4時間はたっぷりできる、ただ、指導者がいないのが何よりも残念なことだという。全国大会への抱負を聞くと、次のように答えてくれた。「負けてもともとですからベストをつくすのみです。負いすぎずにやってみたくと思っています」

メンバー紹介

田中考二(ギター) 財津和夫(ギター)
末広信幸(ギター) 吉田 彰(ベース)

〈フォークミュージック部門〉
中部北陸代表

ロス・ヒターノス



石川県山中温泉で漆の上塗りと蒔絵をやっている職人さんのフラメンコ・コンビ。ファースト・ギターの三宅君は蒔絵の親方で、青年団の大将でもある。ともに二十四年生れで、ギター歴も同じくらいだそうだ。もっとも三宅君はフラメンコ一点張りで、七年間続けてきたのに対し、八木君はエレキやフォークに寄り道をしてきた。コンビを組んだのは一年前。同業でも職場がちがうのであまり練習できないが「気が合うから、わずかな時間話をするだけでいい」という。LMC全国大会出場が決まったとき、飛び上ったり、肩をたたきあったりして喜んでた。しかし、彼等の出場決定がフロックでないことはいまでもない。審査員のひとりが「フラメンコにはオリジナルはないが、曲にのった演奏はオリジナルティーがあるといえる」といっていたように、息の合った名演奏だった。全国大会でもこの調子で を任倒すだろう。

メンバー紹介

三宅博(フラメンコ・ギター)
八木繁(フラメンコ・ギター)

〈ジャズ部門〉関西・四国代表

グルーヴィング・ファイブ



関西・四国地区のジャズ部門の成績は優秀で地区本選出場3バンドは揃って全国グランプリ大会へ駒を進めたが、そのなかでもいときわユニークなバンドがこのグルーヴィング・ファイブである。それは、ジャズ・ヴォーカリストとしてのフィーリングを備えた本性ヴォーカルがメンバーに加わっているからである。それに、ヴォーカルを加えることになったいきつがちょっと変わっていて、最初はヴォーカルなしのバンドだったのだが、LMCの途中で、テナー・サクスが出られなくなったので、急にヴォーカルを加えたところそれが成功したので正式にメンバーの1員になったとのことである。そのあとまた、テナーを加えて現在の6人編成になったのであるが、この6人はそれぞれ学校が違うため、まとまった練習はあまりやっていないとのことである。しかし、個人々の力量はかなく高くメンバーが代っても、アンサンブルが崩れることはない(神戸市)

メンバー紹介

植村晃(ドラム) 高野勝一(ベース)
赤松二郎(テナー・サクス) 鶴林明子(ヴォーカル)
安川ひろし(ギター) 池田保夫(ピアノ)



〈ジャズ部門〉
関西・四国代表

竹越真樹トリオ

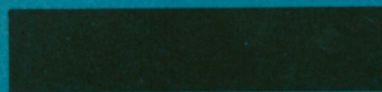


全員、職業人であるこのトリオの練習条件はなかなかきびしいものがある。練習時間はどうしても夜八時以後。それも、あまり長くはできない。明日の仕事にさしつかえるからだ。それぞれの職業は漬物屋、土建屋、鉄工所。それにしても演奏の方は抜群にうまい。特にアレンジは、プロも顔負けというくらいである。もちろん、関西・四国大会での成績も第一位。しかし、一朝一夕にここまで成長できたわけではなかった。竹越トリオがここまでくるには、大学一年のときにはバンドを組んで以来、バンド歴8年というキャリアにうらうちされているのである。そして、その間、メンバーの活動を支えてきたものは「ジャズが何よりも好き」というただ一点だったとのことである。(京都市)

メンバー紹介

竹越真樹(ピアノ) 小林弘佳(ドラムス)

原田輝夫(ベース)



〈ジャズコンボ部門〉
関東甲信越代表

東京理科大学 スパイラル・ ステップ



昨年、「大学対抗バンド合戦」でみごと優勝をからとった話題のバンド。しかし、大学のクラブなので、毎年メンバーの入れ換えがあり新メンバーである今年のチームは、先輩たちが残していった業績が、とても負担だという。このチームは、いわゆる〈新主流派〉的な演奏をめざしている。〈新主流派〉とは、ジャズの伝統にしっかりと根を下しながら、それでいて、予測のつかない可能性へと挑戦意欲をたぎらせていくことが、ジャズに新しい感覚をはぐくむ、と主張するグループのことである。だから、「ある瞬間において意気投合したチームが、その時、何か新しい、すばらしい演奏をすることができたら！」とリーダーの喜多君は語る。

大学には練習場がなく、日曜日に教室を借りて練習するが、それだけでは、どうしても、時間がたりないので、時々、ジャズ喫茶に出演するという。本当にジャズが好きで若者たちが集ってくるジャズ喫茶での演奏は、何よりも勉強になるということであった。

メンバー紹介 喜多徹夫(ギター) 平塚敏(ピアノ) 佐野宏(ヴィブラフォン) 村山秀樹(ベース)

〈ジャズ部門〉
関西・四国代表

同志社大学 軽音楽部モダン ジャズ・グループ



同志社大学軽音楽部の一年生と二年生だけでつくられているこのバンドは、モダン・ジャズ・グループのなかの二軍だということである。もちろん、二軍だから演奏技術が劣るといっているのではなく、三・四年生によるバンドがあるために、下級生の彼らは「二軍」と呼ばれるのである。

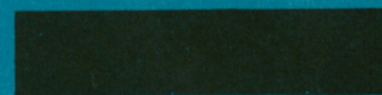
したがって、このメンバーによるバンド活動は一年生の柳田君のピアノが加わった今年の春以降のことで、まだ半年程しかたっていない。また、バンドの態度も謙虚で、「まだ、完成された何かがあるとは思っていません。自分たちの演奏がどの程度のものなのか、客観的にみていただこうと思って出場しました」と語っている。(神戸市)

メンバー紹介

真鍋信一(ベース) 川沢泉(テナーサクソ)

向井滋春(トロンボーン) 楠木卓司(ドラムス)

柳田宗弘(ピアノ)



〈ジャズ部門〉
北海道代表

ザ・マイルストーンズ



北海道の代表バンドは不思議なことに2つともバンド歴が浅い。このザ・マイルストーンズが結成されたのも、札幌地区予選の直前の7月。もっともメンバー4人はそれぞれ北海道大学、北海学園大学での演奏歴が豊かだし信田君と本多君が「大学対抗バンド合戦」で知り合ってきたバンドなのだから、バンドとしての歴史は浅くても、ベテラン揃いといえるだろう。バンド編成はオルガン・ギター・ベース、ドラムスとなっているが、北海道大会では信田君は1曲目をピアノで演奏した。これは、大会当日のリハーサルでオルガンの調子が今一つ出なかったため、ぶっつけ本番ピアノを使ってみたとのことである。それが思いがけないほどの成果をあげ、グランプリ大会出場へとつながったのだが、このことは1人1人の力量のほどもを語っているといえそうだ(札幌市)

メンバー紹介

信田一男

(オルガン&ピアノ)

曾根康晴(ギター)

白田 正(ベース) 本多 慧(ドラムス)

〈ジャズ部門〉
関東甲信越代表

早稲田大学モダン ジャズ・グループ



早稲田大学の公認グループの一つ。十一年前につくられ、現在部員百名というのが、このモダン・ジャズ・グループの母体。つまり百名のなかから選ばれた六名の精鋭たちによるコンボというわけだ。クラブでは、セッションとにグループを組み、テクニックの研究や養成、曲の分析研究をしているそうだが、それだけに彼等の演奏はたいへんガッチリとしている。「普通のコード進行を広く広く考えていきたいと思っています。昔のジャズの良さを残しながら新しいものに近づいていこうということなんです。またモード奏法の考え方とか、アドリブを工夫して、新しいサウンドを生みだしたいとも考えています」とリーダーの副田義隆君は語る。このバンドとしては、アート・ファーマー五重奏団を参考にしているとのことだが、LMCでやる曲は特にそれと関係はないそうだ。二管とヴァイブの特別編成のこのコンボ、どんなサウンドを創りだすか、非常に楽しみだ。

メンバー紹介

副田義隆(トランペット) 数江良一(ピアノ)
横山裕樹(アルトサクソ) 望月英明(ベース)
島岡 正(バイブ) 松村 進(ドラム)

〈フルバンド部門〉
中国代表

H.C.C.キュー バン・ナイツ



LMC 全国大会の常連バンド。中国地区では全国大会出場資格のパロメーター的な存在でみな、このバンドに追いつき追い越そうとシメギをげずっている。H.C.C.はいうまでもなく、広島商業・カレッジの略。つまり広島商科大学のラテン音楽部のバンドである。バンド歴は十年になるが、一貫してアフロ・キューバン音楽を手がけてきている。「プラスのヴォリュームがやや乏しい」ので、ダイナミックな演奏は望めないが、よくまとまり、バランスの優れた演奏をする。大学のクラブなので、楽器はすべて大学で購入してくれるという。財政面で苦労している一般のオーケストラからみると、たいへん恵まれているわけだ。しかし、悩みもないわけではない。その最大のものはよい譜面がないこと。レコード・コピーなどでそれを補っているがバンドに合った曲はなかなかないそうだ。「よい曲、優れたアレンジャーがいたら教えてください」とのこと。ご協力の程をノ

メンバー紹介

中村正裕(バリトンサクソ) 山中和夫(ギター)
花岡武彦(テナーサクソ) 山内博(ドラム)
越田徹生(バスロンボーン) 藤井真澄(ギロ)
光本正昭(トロンボーン) 用品照夫(トランペット)
田中康夫(テナーサクソ) 藤田暁男(ボンゴ)
清水敬章(アルトサクソ) 風早寛(トランペット)
梶山正孝(トランペット) 村上俊明(ティンパニ)
平靖行(トランペット) 細田信行(アルトサクソ)
柳健二(トランペット) 出本元治(コンガ)
松平英樹(マラスカ) 山下成章(ベース)
石本伊津子(ピアノ) 大田弘志(トロンボーン)

〈フルバンド部門〉
中部北陸代表

愛知学院 大学 スイング オールスターズ



いうまでもなく昨年度のLMCグランプリを獲得したバンドである。大学バンドなので毎年新陳代謝があり、昨年とまったく同じというわけにはいかない。事実昨年のメンバーから五人抜けている。四人は卒業、あとの一人トランペットの個人賞を受けた三年生は、プロ・バンドへ入ってしまった。しかし、伝統どはおかしなもので、主力メンバーが抜けたあとも力は変わりないし、またトランペッターに傑出したものがでてきている。昨年はウディー・ハーマン風は演奏だったが、今年は別に焦点をきめていないそうだ。いい曲がみつければ何でもやっていきたいという。昭和三十一年に中部地方で最初のビッグ・バンドとして結成され、今年で十四周年を迎えている。愛知学生ジャズ・バンドのトップを自他共に許す成らにとり、今年も「負けれない」という大きな責任を背負っている。

メンバー紹介

浅井憲二(ペット) 大脇孝(サクソ)
安井憲司(ペット) 梅村恵(トロンボーン)
北由久(ベース) 小早川清(サクソ)
関谷隆(サクソ) 高橋幸治(トロンボーン)
永田沢夫(ペット) 鈴木秀夫(サクソ)
犬飼修(ドラム) 座間光寛(ボン)
大沢敏夫(ペット) 楠信夫(ギター)
伊藤恒夫(ボン) 松下広和(サクソ)
前多良紀(ペット) 大久保成代(ピアノ)
宮地郷志(ペット) 鈴木康充(ベース)



〈フルバンド部門〉
関東甲信越代表

法政大学 ニューオレンジ オーケストラ



このオーケストラは、編成されてから今年で8年目。好きな曲を、好きな処で、好きな時に演奏したいという。だからコンテストには、めったに出場しない。どのようなオーケストラにしたいとか、どんな演奏にひかれるとかということはなく、「とにかく、好きな曲をたくさん演奏できれば」と、リーダーの岡崎君は、たんとんと語る。練習時には、恵まれており、毎月2時間以上、その日の調子で、5時間、6時間と練習する事もあるそうだ。今は、R&Bを演奏する事が多い。ただ1つの悩みといえば、譜面がなかなか手に入らない事。もっぱらレコードコピーにたよっている。今回のLMCで演奏するスイッチングタイムも、カウントベイシーのアルバムから、コピーしている。クラブの部員は28名。内、うまい順にレギュラー17名。いつもマイペースで、好きなようにす・む……といっても、法政大学を代表するフルバンド。かなりの演奏が、期待されよう。

松村達一郎(トランペット) 稲垣政己(ベース)
楠野三男(トランペット) 田中謙一(テナーサクソ)
桜井利春(トランペット) 松川広(バントンサクソ)
小林正吾(トランペット) 伊藤松男(ドラム)
大泉孝夫(トロンボーン) 村山敬(ベース)
山口昌則(ギター) 立川雅章(ドラムス)
蒲田達生(トロンボーン) 森田健作(ピアノ)
蒲谷重光(トロンボーン) 荒木克仁(ギター)
岡崎二郎(バストロンボーン) 斉藤博(パーカッション)
寺田純二(アルトサクソ)
川原崎清三(テナーサクソ)
斉藤裕二(アルトサクソ)

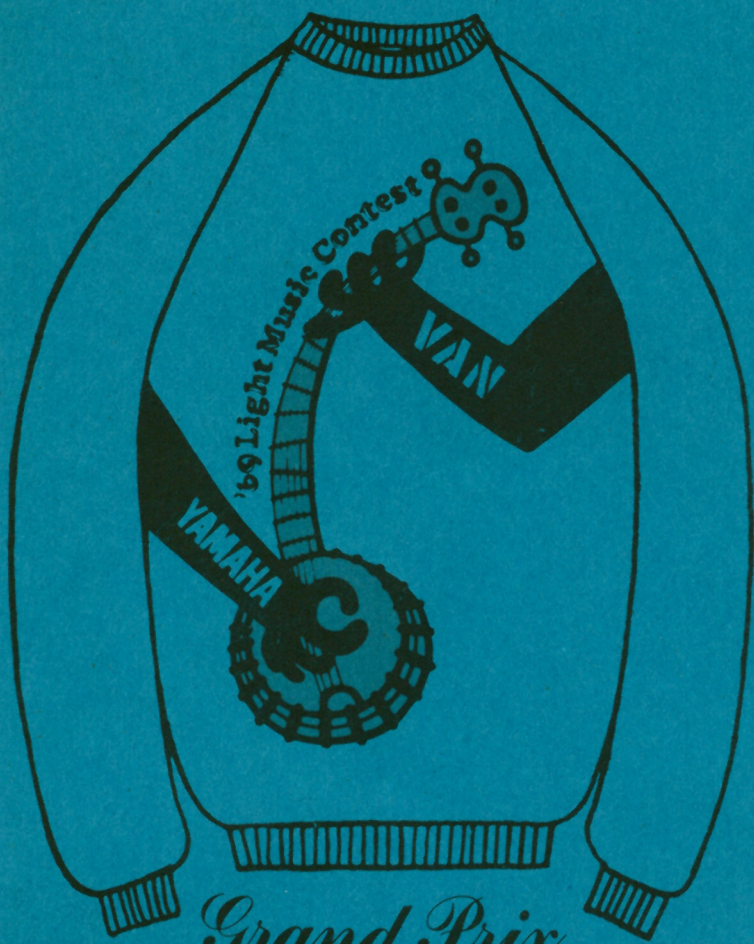
〈フル・バンド部門〉
関東甲信越代表

早稲田大学ハイソ サエティ オーケストラ



バンド歴20年を誇る早大・ハイソサエティ。音楽の好きな若者でこの名を知らない者はいないといっても決して過言ではないだろう。プロ関係者からも高く評価され、現にハイソ出身のプロ・ミュージシャンも活躍中である。今年のレギュラーは19名で主体となっているのは3年生だが、あとにひかえているジュニアが30名近くいるという。部室も完備され、学生バンドとしては大変恵まれた環境の中で伸び伸びと音楽しているようだ。去年のLMCでは棄権したが、今年はグランプリをめざしてバク進中である。「今年に行けるところまで行こう」というような軽い気持ちで出場したんです。ですから練習方法も時間もいつもと変わらない、まったくのマイペースでやってきました。ただ、今年のコンテストで特に考慮した点は、どんな曲を演奏するかということでした。そこで、みんなの意見や他のバンドとのつり合いなども考えて、アップ・テンポな曲を選んだわけなんです。このみんなでやりたいものをやつて行くというのが、僕達のバンドのカラーを作っているんじゃない

池田幹雄(トランペット) 飯田次郎(トロンボーン)
河田秀生(トランペット) 上田英司(トロンボーン)
飯簀秀行(トランペット) 目沢茂美(トロンボーン)
川崎賢二(トランペット) 長 能連(トロンボーン)
船山基紀(アルトサクソ) 藤本清春(ドラム)
稲葉民生(テナーサクソ) 尾崎隆昌(ベース)
中冨正寛(テナーサクソ) 五野洋(ギター)
谷田部達三(アルトサクソ) 吉田達(ギター)
津久井茂樹(バリトンサクソ) 中富雅之(ピアノ)
鈴木裕史(パーカッション)



Grand Prix

3rd ALL JAPAN LIGHT MUSIC CONTEST Right Fashion Contest

ライト・ファッション・コンテストとは……

ミュージック・コンテストと併行して、グランプリ大会出場チームのブレイング・ウェア（服装）を審査いたします。入賞チームにはステキな賞品を用意してあります。このライト・ファッション・コンテストの審査のポイントは、そのことばが示す通り、正しい（RIGHT）服装であることが要求されます。すなわち、メンバーの選曲、パーソナリティーとマッチしたブレイング・ウェアであること。またヤングメンのシンボルとしての若々しい健康的な服装であることが条件です。グランプリ大会において、果して優勝するチームはどこか、皆さんも一緒に音楽だけではなく服装にも注目してください。審査はミュージック・コンテストの審査員に加えてファッション・コーディネーター：柳原氏が審査にあたり、最後に服飾評論家の石津謙介氏が講評、発表を行います。

音楽とファッションとの結びつきは……

最近のファッションはミュージシャンから生れるといっても過言ではありません。どこの国でも、どんなリズムでも音楽とファッションは決して切りはなせません。フォーク・グループはコットン・パンツにボタン・ダウン・シャツ、R&Bグループはネール・カラー・スーツ……ミュージシャンは服装でも自分の個性を主張しなければならないのが現代の音楽の方向です。



賞品：上位入賞チーム3位までVAN特製“桶”
副賞にVANニット・ウェアが贈られます。

VAN
JAG

LMAと握手すると

●ユニークで楽しい会報（YOUNG YAMAHA）の発行 ●あなたの抱えている疑問・悩みを解決するよき相談相手——ミュージック・

コンサルタント ●あなたのご都合にあわせてレッスンできるヤマハ・ミュージック・セルフ・スタデイ・システム ●日ごろの練習

成果を思い切り舞台にぶつける発表会の開催 ●アマチュア・ミュージシャンがグランプリを競うライト・ミュージック・コンテスト

●美しい自然にかこまれてLMA仲間と心ゆくまで音楽を楽しめるミュージック・キャンプ

●アイドルのサウンドを、あなたの目・耳で確めるコンサートご招待・ご優待このほかにも、

ラジオ・テレビへの出演（協力）、フェスティバル、レコード・コンサート新譜試聴会など、

盛りだくさんの楽しみが、あなたを待っています。LMA仲間の集合場所は、LMA地区本部（ヤマハ特約楽器店・ヤマハ直営店）。

そこに用意してあるのが、ミュージック・メニュー。LMAの先生のリスト、ライト・ミュージック・コンテストの資料、ミュージック・キャンプの内容などLMAの詳細が美しくまとめられた大きな、大きなホルダーです。

ぜひ一度、LMA地区本部でご覧になってください。ミュージック・メニューを囲んで語り合ったり、新しい情報を交換したり、テクニックを教えあったり…。LMA地区本部は、

仲間のスペースです。

ただいま会員募集中 / 入会方法は……

お近くのLMA看板のあるヤマハ特約楽器店ヤマハ直営店に用意された申込書にサインし

年会費をそえてお申込みください。

●お問合せは下記ヤマハ支店LMA係までどうぞ。

東京支店 〒104東京都中央区銀座7丁目9番18号（パールビル内）TEL03(572)3111

大阪支店 〒564吹田市山田下2864-1 TEL06(878)5151

名古屋支店 〒460名古屋市中区錦1丁目18-28 TEL052(201)5141

九州支店 〒812福岡市明治町3-77 TEL092(44)2151

北海道支店 〒060札幌市南四條東5丁目（豊ビル三階）TEL0122(24)9221

仙台支店 〒980仙台市東一番丁91-4 TEL0222(27)8511

広島支店 〒730広島市紙屋町1丁目2番 TEL0822(43)4511

浜松出張所 〒430浜松市鍛冶町122 TEL0534(54)4111

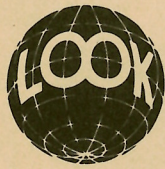
音楽の誕生は？
これがLMA（ライト・ミュージック・アンソニエーション）です。
プレイテックは？
新しいアイドルは？
それがLMA（ライト・ミュージック・アンソニエーション）です。

LMA

エールフランス で楽しもう!

ルック

ヨーロッパ・東南アジアの旅



**ルック アンコールワット
・バンコク・香港**
¥219,000

出発日 44年11月18日 / 12月9日 / 12月30日
45年1月20日 / 1月27日 / 2月10日
2月24日 / 3月10日 / 3月24日

東京からまずエールフランスの直行便でシエムレアプへ。ジャングルの中の石造りの土手を走るうちに突如として現われるアンコールの巨大な遺跡。——東南アジアのハイライト・アンコール見物のあと、プノンペン、バンコクから香港に寄って帰国します。

ルック スペインと地中海の旅
23日間 出発日 45年3月5日 ¥580,000

陽春の南ヨーロッパと地中海、モロッコ王国を訪れ、バルンシアでは有名な春祭りの見物。ヨーロッパ王侯貴族の避暑地めぐり。いままでのヨーロッパツアーになかった豪華な、新しいイメージの特選コースです。

話題の海外旅行

ルック ライト・ヨーロッパ

13日間 出発日 2月10日 / 2月14日 **¥298,000**
14日間 出発日 3月8日 / 3月22日 **¥303,000**
19日間 出発日 3月15日 **¥360,000**

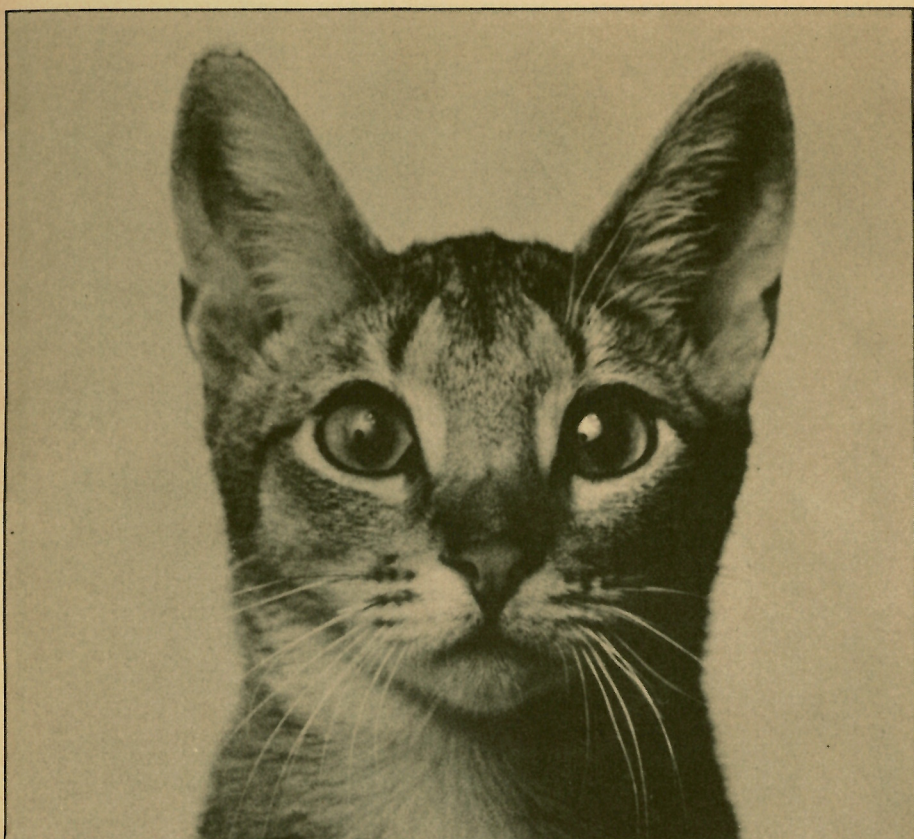
憧れのロンドン、パリはもちろん、南仏、イタリアなど暖かい地中海地方を快適で、デラックスな特別バスを中心に、フランス国鉄や国際列車など、バラエティのある乗りものを利用。ヨーロッパの風景をすぐ目の前に鑑賞しながらの旅行です。自由行動の時間もタップリあります。



全コース月払い制度エアークレジットを利用できます。お問合わせは下記まで。

AIR FRANCE

東京 大阪 名古屋 福岡
(501)6331・(202)6326・(541)0540・(77)6442



キャッツ・アイ・キヤノネット Cats-eye Canonet



キヤノンレンズ40mmF1.7付 ¥25,000 ケース ¥1,500 フード(ケース付) ¥550 キヤノライトD(ケース付) ¥4,800 キヤノンカメラ販売株式会社

SONY®



あなたのステレオにつないでください

録音することの楽しみでステレオが2倍にも生ききます
(ファミリーデッキとは、ステレオ装置との接続専用テープコーダーのことです。お手持ちのステレオにすでに入っているスピーカとアンプをそのまま使えるようファミリーデッキにはスピーカとアンプがありません。
その分だけ音質の向上をはかっています。人の耳で聞こえるすべての音をもらさず録音し再生できるほど高性能です。
コード一本で接続
操作もいたって簡単です
コードをあなたのステレオに差し込むだけ。
FM放送の録音も音の良いミュージックテープの再生も自由自在です。
テープのセットが楽な特許のエスカレートドライブ方式によって、どなたにも簡単に操作できます。

ファミリーデッキ TC-6250 ¥29,800



キリツと爽快。サッポロライト



SAPPORO
Lite

1本60円

想像もできなかった、まったく新しい清涼飲料サッポロライト。いよいよ、封切られました。キリツとしたノドごし爽快なうまさ。まさに画期的。あつと言われるはず。ビジネス、ゴルフ、ボウリングの途中で飲めば、一瞬にリフレッシュ。活動派の清涼飲料です。

野を駆けるもの

単気筒5ポートエンジン。わが国初の本格トレール。



ヤマハトレール250DT
YAMAHA

ポップス POPS

定価 200円 音楽之友社



ポップスはポピュラー音楽の専門誌です
〈12月号・11月18日発売・内容の一部〉
●特集＝日本ポピュラー界の現状と将来
鶴見良行／相倉久人／かまやつひろし／
内田裕也／木崎義二／三橋一夫 ●現代
のジャズメン〈セシル・テイラー〉清水
俊彦 ●対談〈アン真理子／加藤和彦〉



YAMAHA

日本楽器製造株式会社 財団法人ヤマハ音楽振興会